

## 講義情報

講義情報番号	
--------	--

### 講義表題情報

* 開講学年1	2
* 入学年度1	13～
* 対象学科1	法学
* 科目名1	国際法B

### 担当教員情報

* 担当教員	杉島正秋
--------	------

### 講義詳細情報

* 講義目的・講義内容	<p>この講義では、人権保障の分野で国際法が果たしている役割、国家の自国領域（領土・領空・領海など）に対する権利の2つを中心にとりあげます。</p> <p>人権については、まず日本法の基本的特色を復習します。これは国際法上の人権保障に関するルールを国内的に実現するための手続や関連する諸問題が、すべて日本法と関わっているためです。たとえば、憲法をはじめとした国民の権利保障に関するルールと国際的な人権保障がどう関わるのか、日本の裁判所で国際人権保障に関するルールがどう扱われているのか、人権条約の国内的实施のため、どのような立法措置がとられているかといった問題です。</p> <p>これをふまえ国際法上の人権保障について、条約ごとに説明してゆきます。</p> <p>領土については、領空と宇宙空間の違い、現在の海洋制度を説明した上で、日本が抱える3つの領土問題（尖閣・竹島・北方領土）をとりあげます。国際法Aと同じように、講義では、私たち市民（庶民？）が国際法とどう関わるのか、という側面を重視しています。</p>
* 到達目標	<p>①日本の法制度の特徴を、国際人権法の国内実施との関連で説明できること。</p> <p>②国際人権法に関連した日本の重要な裁判例について説明できること。</p> <p>③現在の海洋法制度への歴史的な発展過程を知り、特徴について説明できること。</p> <p>④日本の領土問題について主張の対立点を説明できること。</p>
* 授業計画	<p>1.人権保障における国際法と国内法 事前学修:Moodleの配信資料を読む（2時間） 事後学修:国際法と国内法の関係を復習する（2時間）</p> <p>2.人権と特権 事前学修:Moodle上の資料を読む（2時間） 事後学修:人権と特権の違いを整理する（2時間）</p> <p>3.人権と平和 事前学修:Moodle上の資料を読む（2時間） 事後学修:人権保障と平和維持の関係を整理する（2時間）</p> <p>4.二つの国際人権規約 事前学修:Moodle上の資料を読む（2時間） 事後学修:自由権規約と社会権規約の内容を整理する(2時間)</p> <p>5.人権条約の履行確保制度 事前学修:テキスト5章を読む（2時間） 事後学修:政府報告書の審査手続をまとめる。(2時間)</p> <p>6.人権理事会の役割 事前学修:Moodle上の資料を読む（2時間） 事後学修:人権理事会の役割を整理する（2時間）</p> <p>7.自国領域に対する国家の基本的権利 事前学修:Moodle上の資料を読む（2時間） 事後学修:領域の取得方法を整理する（2時間）</p> <p>8.領空と宇宙空間 事前学修:Moodle上の資料を読む（2時間） 事後学修:領空と宇宙空間について国際法的な性質の相違を整理する（2時間）</p> <p>9.領海制度の成立 事前学修:Moodle上の資料を読む（2時間） 事後学修:領海／公海の2元的制度が成立した過程を整理する（2時間）</p>

	<p>10.大陸棚と排他的経済水域  事前学修:Moodle上の資料を読む (2時間)  事後学修:排他的経済水域が有する経済的価値について整理する (2時間)</p> <p>11.深海底制度と海洋紛争の解決方法  事前学修:Moodle上の資料を読む (2時間)  事後学修:深海底制度について整理する (2時間)</p> <p>12.領土紛争に関する国際裁判例  事前学修:Moodle上の資料を読む (2時間)  事後学修:パルマス島事件、マンキエ・エクレオ事件、東部グリーンランド事件について整理する (2時間)</p> <p>13.北方領土問題  事前学修:Moodle上の資料を読む (2時間)  事後学修:北方領土問題の論点を整理する (2時間)</p> <p>14.尖閣諸島問題  事前学修:Moodle上の資料を読む (2時間)  事後学修:尖閣諸島問題の論点を整理する (2時間)</p> <p>15.竹島問題・全体のまとめ  事前学修:Moodle上の資料を読む (2時間)  事後学修:竹島問題の論点を整理する (2時間)</p>
* 履修の条件・注意事項	<p>講義資料、毎回の課題はMoodleから配信しますので、かならずコースに登録してください。憲法、民法、歴史学などの関係科目を履修済みであることを希望します。それぞれの法分野について、指定されたテキスト・講義で配布されたレジュメなどで、受講前におさらいしておいてください。</p>
* 成績評価基準・方法	<p>定期試験(40%)、毎回の課題(60%)により総合的に評価を行います。出席者には課題を毎回与え、提出内容に基づき評価します。出欠席のみでの評価は行いません。遠隔の場合、定期試験、課題提出はMoodle上で行います。評価基準は同じです。</p>
* テキスト	<p>芹田健太郎編『コンパクト学習条約集』第3版 信山社 ISBN: 978-4-7972-5913-1  自作テキスト(大学から交付されたメールアドレスへ配信)</p>
参考書	<p>小室直樹『国民のための戦争と平和』ビジネス社 ISBN:978-4-8284-2004-2</p>